

ほとけの 混和会だより

令和四年一月

東 光 院
仏の混和会

第157号

あけまして

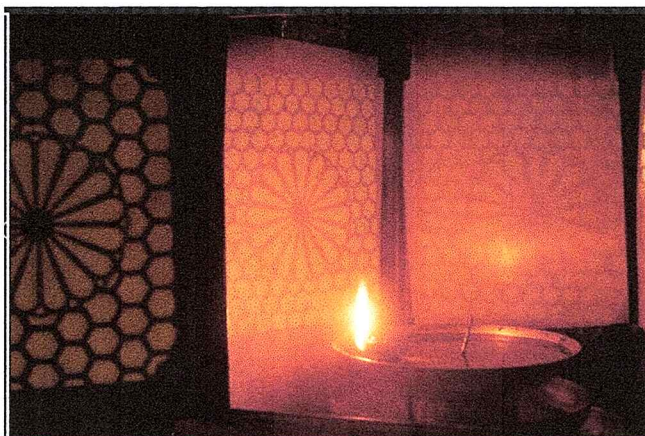
おめでとうございます。

皆様のご健勝とご多幸と

お祈り申し上げます。

合掌

令和四年元旦



このともしびは人生の生きる指針と成るよう、最澄様が比叡山根本中堂にともされた、ともしびです。

人生は悟りを求めての旅 No 2

コロナウイルス漸く収束の兆しが見えたかと思われましたが、新たにオミクロンと言うウイルスがはびこって参りました。一日でも早く安心の抱ける日々を送りたい物でございます。又昨年は他人を巻き添えにする殺傷事件や放火事件が度重なってしまいました。誠に痛ましい限りでございます。

巻き添えにあった被害者、又ご家族の皆様にかかれましては誠に無念な事と存じます。

事件を起こした加害者は、生きる指針を失い孤独社会をさまよひ、苦し紛れにこのような事件を起こしてしまったのでは無かるうかと推測されます。

僧職の立場にあるものとして加害者を責めるだけで無く、人と人、ともに寄り添う環境があればこのような痛ましい事件は起きなかつたのでは無かるうかなど、共に寄り添う環境を築く役目を担うものとして大きな罪悪感と責任を感じ得る令和三年と言う年でした。よって本年度も様々な手段

を講じてよりどころとなるよう共に集う「サンガ」の構築に努めて参りたいと存じます。

悟りを求めて

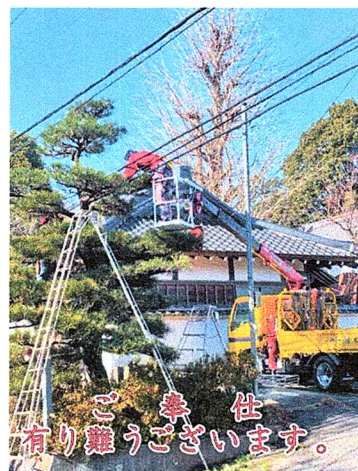
悟りと言っても、大それた境地を求め歩むのでは無く「安心」に抱かれる境地とか「幸せ」と受け止めると理解しやすいかと思います。

私達は、幸せを求めて人生を歩みます。しかし何を幸せとするかによって人生が左右されてしまいます。それぞれに自己だけの利益や幸せを求めては争いの要因と成ってしまいます。

己も他も、「安心」「幸せ」この言葉の境地を共有できる環境を築く事ができたら、共に安心に満たされる悟りの境地を歩めるものと思えます。このような環境を私は「サンガ」と解釈しております。

「安心」「幸せ」この境地を共有するには、それぞれに悟りすなわち「仏心」を得ようとする御心「慈愛心」を抱く事から始まります。

よって本年度も共に慈愛心を育めるよう努めたいと存じます。



岩井植木様には毎年境内の芝生の除草管理や松の剪定、そして正月の餅を御奉納賜っております。誠にありがたい事と存じます。

横尾 正様、宮崎忠夫様、横尾介万様、五十嵐實様には、そば、大豆、サツマイモ等の畑の栽培管理等のご奉仕誠に有り難う御座いました。

そして各種行事にご奉仕頂いている宮崎洋様、田久保招吉様、林政彦様、そして裏方でご奉仕頂いている。横尾静枝様、菅沼紀子様、林かほる様、山崎勝子様、中村栄子様、おそばも、おにぎりも大変おいしかったです。

その外、沢山の人々のご奉仕誠に有り難う御座いました。心より御礼申し上げます。

合掌



日本仏教に登場する仏様を毎号少しずつご紹介。今回は「ジャータカ物語」というインドの仏教寓話から今年の干支「トラ」の登場するお話を紹介します。

ライオン

とトラ



森にスグータとスパーフというライオンと虎が仲良く暮らしていると、いつしか山犬が住みつき山犬は自分で狩りをせず、いつも二頭に取り入ってはおこぼれを貰って暮らしていました。

ある日山犬は思います。

「今まで色々美味しい物を食べてきたがまだ、ライオンと虎は食った事が無いな。奴らの肉は美味いと聞く。ならば喧嘩をさせて共倒れになれば二頭の肉が食えるぞ！」と、悪知恵を働かせると早速スグータの元へ向かい山犬は言いました。

「最近虎の奴、ライオンはダメな奴だとか毛並みも体付きも虎に劣るって悪口ばかり言っていました！」

「消え失せる嘘つき山犬！私の親友はそんな事を言う奴ではない！」と怒鳴りつけ

ました。

山犬は直ぐさまその場を逃げ、今度は虎の元へ行き同じ嘘を言いました。

驚いた虎はスグータの元へ行き問いました。

「我が親友スグータよ、山犬の話は本当なのか？本当ならば私はこの森を去る。」

「私の親友スパーフよ、心卑しい山犬は同じ告げ口を私にもしたが、君を信じる私ならばあの様な虚言を信じるのだらうか。他人の言葉を信じる味する智慧も持たずに簡単に信ずる者は友達も直ぐに離れ、敵も沢山できるだろう。」

勝手気ままにだらしない友を疑い欠点を探す輩は友じゃない。僅かな疑問も挟まずに、母に抱かれて眠る子供の無心さは壊す事など出来ぬもの。そんな友こそ本当の友と呼ぶに値する。」とスグータは言いました。自分の浅はかさに恥じた虎は心から誤り、二頭は一層仲良く暮らしたとき。

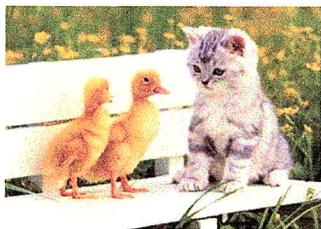
「本当の友とは？」と言う事を説いた寓話でした。

私自身もコロナ渦となり改めて友人の存在の大きさと大切さを一層感じました。

今年こそ気軽に友人達に会える年になる事を切に願います。



心の豊かさへの時代へ



昭和、平成の時代は物質的豊かさを追い求め、その達成によって幸福感を感じておりました。

しかし、その価値観により地球環境は危機的状況下に陥ってしまいました。

令和の時代は物の豊かさよりも持続可能な心の通い合える環境、心の豊かさを求める時代になって欲しいものではないでしょうか。

自然の営みの元に、共に他の幸を念じ、共に心が通い合える行動をする。その積み重ねが心の潤い、眞の豊かさへとつながる物と思われれます。



境内の大掃除

令和三年十二月十九日 境内の大掃除を行いました。

昨年からはコロナ対策として、皆で栽培から製粉まで行う東光院名物のおそばは、お持ち帰り頂く事としましたが、本年度は少し収束の兆しが見えてきたので境内で皆さんと共に頂く事と致しました。

何時も参加して下さいさるH・Uさんのご家族は、今回もおじいちゃんに、おばあちゃん、お父さんにお母さん、そしてお孫さんまで参加して下さい、そのお孫さんは、お盆におそばを沢山のせて「おそばどうぞ」と声をかけて皆さんに配って下さりました。

すると「どうもありがとう」と言う微笑ましい挨拶と共に、人と人共に寄り添い合う、ほのかな慈愛心により、心の通い合う一時を過ごす事が出来ました。大変ありがたいう事と存じます。

合掌